

[海上輸送費用削減便益（フェリー貨物）]

ここでは、フェリー貨物車両の海上輸送費用の削減額を算出する。

without 時は喫水調整により片道 25 分輸送時間が延びている。

取扱貨物車両台数は 56,997 台/年（平成 28 年以降）と設定している。

本プロジェクトの実施により約 1.1 億円/年の輸送コストが削減可能となる。

【海上輸送費用】

項目		without時	with時
車両台数（台/年）	トラック	33,305	
	トレーラー	23,692	
輸送時間（時間）		20.88	20.44
海上輸送費用原単位	トラック	86,314	84,607
	トレーラー	114,597	112,348
海上輸送費用（千円/年）		5,589,720	5,479,585
海上輸送費用削減便益（千円/		110,135	

[輸送時間費用削減便益（フェリー貨物）]

ここでは、フェリー貨物の輸送時間費用の削減額を算出する。

without 時は喫水調整により片道 25 分輸送時間が延びている。

取扱貨物量は 4,984,260 トン/年（平成 28 年以降）と設定している。

本プロジェクトの実施により約 1.5 億円/年の輸送コストが削減可能となる。

【輸送時間費用（海上）】

項目		without時	with時
取扱貨物量（FT/年）	農水産品	702,698	
	林産品	11,951	
	鉱産品	0	
	金属機械工業品	26,128	
	化学工業品	9,886	
	軽工業品	470,942	
	雑工業品	808,912	
	特殊品	259,476	
	分類不能のもの	2,694,267	
時間費用原単位（円/FT・時）	農水産品	76	
	林産品	48	
	鉱産品	76	
	金属機械工業品	34	
	化学工業品	71	
	軽工業品	24	
	雑工業品	78	
	特殊品	76	
	分類不能のもの	67	
輸送時間（時間）		20.88	20.44
輸送時間費用（千円/年）		6,894,633	6,749,344
輸送時間費用削減便益（千円/年）		145,289	

[移動時間費用削減便益（フェリー旅客）]

ここでは、フェリー旅客の海上移動時間費用の削減額を算出する。

without 時は喫水調整により片道 25 分輸送時間が延びている。

旅客人数は 97,856 人/年（平成 28 年以降）と設定している。

本プロジェクトの実施により約 0.9 億円/年の輸送コストが削減可能となる。

【輸送時間費用】

項目	without時	with時
旅客人数（人／年）	97,856	
時間費用原単位（円／人・分）	36.4	
移動時間（時間）	20.88	20.44
移動時間費用（千円／年）	4,462,421	4,368,386
移動時間費用削減便益（千円／年）	94,035	

[残存価値]

プロジェクトの供用期間(50年)の終了とともに、その時点で残った資産は精算されると仮定する。

本プロジェクトにおいて残存価値を計上できる航路・泊地、ふ頭用地の残存価値を算出する。

本プロジェクトの供用終了と共に、358 百万円の残存価値が発生する。

【航路・泊地】

項目	WITHOUT 時	WITH 時
L : 耐用年数（年）	—	50
I : 再投資からの年数（年）	—	50
A : 当初価格（百万円）	—	3,226
残存価値（百万円）	—	323
残存価値（計）（百万円）	323	

【ふ頭用地】

項目	WITHOUT 時	WITH 時
面積（m ² ）	—	1,000
土地単価（円／m ² ）	—	35,100
残存価値（百万円）	—	35
残存価値（計）（百万円）	35	